

自分の命は自分で守る。守った命で他人を守る。

発行「梅屋防災まちづくり活動チーム」

梅屋学区 防災まちづくり Newsletter

第1号

2020年3月

梅屋学区の防災 まちづくり活動 始まりました！

梅屋自主防災会では、かねてより実践してきた空き家対策を通して、災害時の問題にも主体的に取り組むべきとの認識に至りました。近年、地震や台風、火災、新型ウィルスなど、さまざまな災害が多発しています。そこで、自主防災会では行政や専門家の協力を得ながら、2020年度から2年間、以下の3点を目標とした活動を開始します。

- ①本取り組みを通して学区全体の防災意識を高める
- ②まちあるき等を通して地域の防災上の課題を知る
- ③防災環境の改善に向けたまちづくり計画を立てる

防災まちづくり活動は、一部の住民だけの取り組みでは成り立ちません。ぜひとも地域の皆さんの積極的な参加をよろしくお願いします。



準備会で プレまちあるきを 実施しました

防災まちづくり活動の開始にあたり、自主防災会内の準備会にてプレまちあるきを実施しました。1回目（2019年11月16日）は学区の概ね西半分、2回目（2020年2月22日）は残りの東半分の調査しました。

路地や行き止まり、消火器などをチェックしながら、問題点だけでなく、災害時に役立つようなもの、防災上の資源となるものなど、さまざまな視点で地域の「再発見」を試みました。



まちあるきの様子



まちあるき後のまとめ作業

梅屋学区の防災上の 「資源」「課題」再発見

～プレまちあるきを通して見えてきたこと～

木造家屋が密集し、狭い路地の多い梅屋学区は、京都市の「密集市街地」のひとつに位置付けられています。このまちの良さを受け継ぎながら、延焼を抑え、避難・救助しやすい環境に変えていくための手がかりを探っています。



▲適切に管理されている路地。避難時の障害も少なく、美しいまちなみ。



▲活発な地域活動が何より重要な防災「資源」。今後の防災まちづくりもそのひとつ。



▲学区には井戸がたくさんあった。大規模災害時にも使用できる手動式のものを設置したい。



▲段差をなくし、車いす等でも移動しやすい環境に変えていくことは災害時にも重要。



▲電柱が地震で転倒した際には、道路がふさがり、避難や救助の妨げになる。

防災まちあるきのポイント

- 1 燃えやすい・燃え広がりやすい
管理されていない空家・空地はないか？
延焼・類焼しやすい場所は？
- 2 逃げにくい・助けにくい
行き止まり、段差、狭いみち？
避難経路は複数あるか？
通行の支障になるものはないか？
- 3 壊れやすい・倒れやすい
地震で倒壊しそうな建物はないか？
電柱やブロック塀が倒れたら？
- 4 使えそう・役立ちそう
避難・救助活動に有効な場所やもの
消火・延焼遮断に有効な場所やもの
- 5 残したい・活かしたい
古くから受け継がれてきた場所やもの
次世代に継承していきたい場所やもの

これからの防災まちづくりのすすめかた

梅屋学区では、2020 年度から 2 年間、定期的な会合やワークショップ、まちあるきなどを行いながら、地域の防災環境の改善を図っていきたくと考えています。実施にあたっては、京都市都市計画局まち再生・創造推進室、京都市景観・まちづくりセンターにも参加いただき、また計画のとりまとめなど技術的な面はアドバイザーの協力を得ながら進めていきます。

まずは、まちあるきを通して自らのまちの防災面を見直してみたいと思います。知っているようで意外と知らない新たな発見があるはずです。ぜひご参加ください。

2020 年度

プレ活動報告&意見交換@自主防災総会
防災まちあるきワークショップ
防災まちづくりアンケート

2021 年度

活動報告&意見交換@自主防災総会
防災まちづくりワークショップ
防災まちづくり計画のまとめ

今後の具体的な実施内容や開催時期については別途案内します。